



ことはじめ

協力:株式会社日本レジストリサービス(JPRS)

第12回

チャット

～テキストで会話を～



助手ロボット
JP_29



インターネット研究所
ハジメ・コト所長

1



手軽なメッセージ交換

2021年現在、手軽な連絡手段としてチャットツールないしメッセージングが普及しています。1行1文、もっと言えばスタンプ一つで手軽にやり取りできたり、簡単にグループを作って複数人でやり取りできたりと、便利なツールです。今回はこのチャットツールを追いかけてみます。



2

歴史的ツール



さかのぼると、1979年にAT&Tベル研究所から配布されたVersion 7 UNIXには、指定した相手にメッセージを送るだけの機能でしたが、writeコマンドが標準で入っていました。1983年にカリフォルニア大学バークレー校から、主に教育機関に向けて配布された4.2BSDというOSに、talkというコマンドがあります。これは、1台のホストコンピュータにログインした複数のユーザー同士が、それぞれのログイン端末を経由してテキストをやり取りする、というものです。画面が上下に分割されて、自分の入力と相手の入力に分かれて表示されます。おそらくこのあたりがチャットツールの起源だと思われます。1980年代後半に普及した、パソコン通信サービスでも同様の機能が用意されていました。

1988年になると、Internet Relay Chat(IRC)が開発され、1993年5月にRFC1459になりました。IRCはサーバクライアント型のシステムですが、ツリー上に構成された複数のサーバ間でデータを転送することで、異なるサーバに接続したクライアント間でも会話が可能になっています。通信プロトコルが公開されていたので、さまざまなクライアントが作成されました。最盛期には及びませんが、今でも使われています。

こんなに古い時代でも、端末やクライアントプログラムが文字表示をサポートし、当事者同士が文字コードを一致させれば、漢字仮名交じり文でのやり取りが可能でした。



3



近代的ツールの誕生

IRCは1980年代から使われていましたが、一般ユーザーへの知名度はそれほど大きくありませんでした。チャットツールを世間に知らしめたのは、1996年に登場したIP MessengerとICQです。どちらもメッセージには漢字とひらがなを含む、ASCII以外の文字が使えました。

IP Messengerは白水啓章氏が開発した、LAN内での利用を想定したシンプルなチャットツールで、サーバを必要としません。そしてユーザーを自動的にリストアップする機能があります。このため、非常に簡単にメッセージを交換できました。現在でもメンテナンスされていて、2019年9月リリースの最新版では、ルータを超えてユーザーを自動認識することも可能です。

ICQはイスラエルのMirabilis社が開発したメッセージングソフトで、I seek youからの命名です。ICQはWindowsと共に普及し、世界規模でメジャーになった初めてのメッセージングソフトの一つとなりました。ファイルの転送も可能でしたが、基本的には1対1でメッセージを送り合うプログラムです。なお、ICQにはユーザーを探す機能はありませんでした。それもあって、運営元のWebサイトなどに、電話帳よろしく「ICQ番号」を含むコンタクトリストが掲載されていました。今となっては個人情報保護などの観点から、こうした運用は難しいでしょう。2000年頃によく使われていて、運営母体は二転三転したものの、今でもサービスは継続しています。しかし後発のさまざまなチャットツールが普及したこともあり、現在ではマイナーな存在になっています。

4

現代のツール



ICQがメジャーになって以後、さまざまなチャットツールが現れては消えていきました。そうしたツールを列挙すると、AOL Instant Messenger、Google Talk、Google Hangout、MSNメッセージング、XMPP、Yahoo! Messenger、iChat、iMessengerなどがあります。しかし日本においては知る人ぞ知る、という状態で、一定以上の支持を得られませんでした。

これを覆したのがLINEです。サービス開始は2011年6月で、携帯電話やスマートフォンのアプリケーションとしてスタートしました。初期には、スマートフォン内の電話帳から自動的にユーザーを探して登録するという動作がプライバシーやセキュリティの点で問題視されます。しかし、連絡を取りたい相手が簡単に登録できたというのも事実で、使い勝手を優先する一般層に普及した要因の一つかもしれません。また、スマートフォンへの移行に伴い携帯各社のキャリアメールのトラブルが起きたこともあり、キャリアメールを置き換える形で、急速に普及していきました。なお日本においてはLINEが圧倒的な普及率ですが、世界的にはWhatsApp Messenger、Facebook Messenger、WeChat(微信)などの方が普及しています。いずれも基本はテキストメッセージのやり取りですが、写真や動画を送ったり、通話したりも可能です。

5

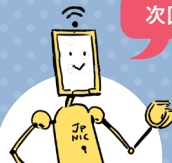


ビジネスにおけるチャット

チャットツールはパーソナル向けに発展してきました。しかし2019年以降、ビジネス向けを意識したチャットツールが注目を浴び、急速に普及しています。代名詞とも言えるSlackは2013年、国産のChatworkは2011年、後発のLINE WORKSが2016年、Microsoft Teamsでも2017年と、サービス開始は意外と早いものです。2019年になって注目を集めたのは、新型コロナウイルス感染症の流行と、それに伴うリモートワークの普及が大きな要因を占めています。

オフィスを離れてみると、メールやビデオ会議を使うほどではない、という情報交換の必要性が意外とあります。オフィスにいれば立ち話や、ちょっとした声かけですんでいたのですが、リモートワークではそうもいきません。このあたりをカバーするのが、ビジネス向けチャットツールということになりそうです。

次回は「インターネットへの接続」を取り上げる予定です。



「インターネット歴史年表」も見てね!!

<https://www.nic.ad.jp/timeline/>